



1



2



4



3

伝統を継承

比和牛供養田植 塩原の 大山供養田植

広島県無形民俗文化財「比和牛供養田植」が5月22日、国営備北丘陵公園で、国指定重要無形民俗文化財「塩原の大山供養田植」が5月29日、東城町塩原で開催されました。これらは、牛馬の供養と五穀豊穰を祈念する伝統催事で、4年に1度行われています。「比和牛供養田植」は、令和2年に開催を予定していましたが、コロナ禍の影響により1年延期。翌年には中止が決定しました。しかし、今回伝統を継承するため、国営備北丘陵公園と合同で開催されました。「塩原の大山供養田植」も、コロナ禍を考慮し、規模を縮小し無観客で開催されました。

比和牛供養田植 (写真: 2・3・4・9)

- ②田植唄の拍子に合わせて田植えをする「早乙女」
- ③「露払い」を先頭に「サゲ」「太鼓打ち」「早乙女」が供養田に向かう「道行」
- ④「太鼓打ち」が約700年前に大山(鳥取県)の神職により伝えられたといわれる技法を披露
- ⑨飾り鞍を付けた供養牛が供養田を歩き回る「代掻き」

塩原の大山供養田植 (写真: 1・5・6・7・8)

- ①飾り鞍などで飾られ、神仏両方の祈祷を受けた牛が田んぼの中を歩き回る「しろかき」
- ⑤供養田植終了後、供養田植の間祭っていた供養札を多飯が辻山の太仙社に奉納する「お札納め」
- ⑥「左下」は太鼓を打ちながら田植歌を歌う
- ⑦「そとめ」は⑥の太鼓に合わせて苗を植えていく
- ⑧田植えを見守る「露はらい」(右)と「幣持」(左)



5



6



7



8



9